

# 重伝建エリア

映画やテレビのロケ地もたくさん

## 桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

当地区は、天正19年(1591年)に徳川家康の命を受け、代官大久保長安の手代大野八右衛門により新たに町立てされた在郷町として発展。保存地区は、絹織物業を中心に発展した町、桐生を示す象徴的な地区でもあります。

### 「根本山道標」

江戸時代、梅田町の根本山にある根本神社はその信仰により多くの参詣人を集めました。安政6年に出された「根本参詣ひとり案内」なるガイドブックには本町二丁目「休所・宮川」が掲載されその当時の様子がうかがえます。その根本山への道程を記した道標(里程標)がこの地域に残されており、道標には「これより道のり/五里/九丁」と刻まれています。



### MAYU

全国的に注目を集める低速電動コミュニティバス「MAYU(まゆ)」。重伝建地区では有鄰館で乗降が可能です。お問い合わせは 桐生市観光交流課(0277-46-1111)まで。



### 「渡辺華山と桐生」

江戸時代後期の武士であり、思想家、画家としても傑出した才能を示した渡辺華山は、妹である茂登が桐生に嫁いだ縁で何度か桐生を訪れました。なかでも天保2年の滞在時の記録である「毛武遊記」には、当時の桐生の状況だけでなく庶民のくらしが生き生きと描かれており、華山の文才が遺憾なく発揮されています。

### ① 群馬大学工学部同窓記念会館・正門・守衛所【国登録有形文化財】

大正5年に建てられた、桐生高等染織学校の講堂および正面玄関の一部で、昭和47年に敷地中央より現在地に移築、同窓記念会館として活用されています。建物は、木造二階建瓦葺、ハンマービームと呼ばれる独特の屋根構造を持ち、内外装から金具・調度品に至るまで建築当初の姿を残しており、教会堂のように厳肅でありながらも華やいた空間を創り出しています。



### ② 天満宮 社殿【県指定重要文化財】 天満宮末社春日社【市指定重要文化財】



天正19年(1591)桐生新町創設にあたり、現在地に遷座されたと伝えられています。社殿は、江戸時代の神社建築に多い権現造で、本殿と幣殿の外壁には極彩色の装飾が施されており、内部にも彫刻や壁画を持つ北関東特有の近世社寺建築の特徴を良く伝えています。また、社殿背後にある、一間社流造、銅板葺の小規模な末社春日社は、天正から慶長年間推定(1573~1615)とされ、市内最古の建築として市指定の重要文化財になっています。  
毎月第一土曜日には北関東一を誇る「天満宮骨董市」が日の出より日没まで開催されています。

### 見学の注意点

ここに掲載された建物等については、敷地外からの見学が基本となります。プライバシーの保護、施設の管理上からも詳細な見学は別途所有者等の承諾を得てください。

### ③ 森合資会社事務所【国登録有形文化財】

大正3年金融業の建物として建てられました。屋根は銅板葺で、外壁に白磁タイルを使用した洋風の事務所です。

### ④ 第壹物産賣買所(買場・上市場)

現在も市場として使用された建物が残り、「買場ふれあい館」として活用されています。天満宮骨董市と同じ毎月第一土曜日に「買場紗綾市」が行われています。